

「公共」2年目の現状と課題

東京都立篠崎高等学校教諭

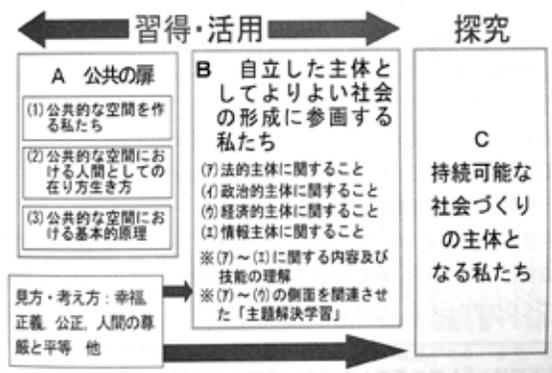
滝田 大樹

1. はじめに

2022年4月より全国の高等学校で新しい公民科目「公共」の授業が始まり、2年が経過した。著者は幸運にも東京都立篠崎高等学校で、1年生の「公共」(2単位)を担当する機会を与えられ、2年目になる。小論は、学習指導要領における「公共」の特徴を概観した上で、大項目「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」で重視される主題解決学習の授業実践を報告する。「公共」で求められる授業は、未だ手探り段階ではあるが、「公共」を担当する先生方に向けて所属校での2年分の取り組みを紹介したい。

2. 「公共」の特徴

「公共」は、大項目「A 公共の扉」、「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」、「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」で構成され、理論や概念、選択や判断の基準を習得し、それらを活用し、法・政治・経済の主題学習を行い、最終的に探究していく一連の学習過程が設置されている。



(橋本康弘編『「公共」の授業を創る』明治図書、2018年、P.17)

また、「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編」の「目標(2)」では、「授業場面、とりわけ大項目Bにおいては、設定した適切な学習上の課題である主題に応じて、様々な概念的な枠組みを用いて、協働して主題を追究したり解決したりする活動を展開されることとなる」と示している。著者は「公共」が、従来の「現代社会」の授業展開よりもきめ細かく、かつ高度な知識事項も学習しながら、並行で「主体的・対話的で深い学び」に重きを置いた主題解決学習の充実を求められるようになったと分析している。

3. 授業の組み立て

(1) 1年目の振り返り

現場でも主題解決学習は一般的になってきたが、「公共」の授業内容が年間授業時数内に収まりきれない現状は無視できない。大項目Bで扱う主題解決学習は、13テーマもあり、扱う内容量も少なくない。『実教704 公共』を照らし合わせて、1テーマを4時間で計算すると52時間も主題学習を扱うことになる。加えて、大項目AとC、学校行事等を踏まえると年間授業時数を大幅に超過する。私自身も初年度の「公共」では、学習指導要領に従って、13の主題の全てを小単元として設定したが、どの小単元も3~4時間で構成せざるを得ない状況になり、時間数確保が悩みとなった。この時間的制約が、生徒の学びの質の確保に影響し、単元全体の学習内容やその筋道に無理を生じさせていた。

(2) 2年目の振り返り

以上の主題解決学習の充実や初年度の反省から学習内容を改善し、2年目の「公共」の大項目「B

自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」で主題解決学習の構造化を図った。小論でいう主題解決学習で構造化は、単元における学習過程と問いの構造化を示している。学習過程の構造化では、法・政治・経済に関わる諸課題を解決する主題解決学習を「問題把握」,「問題追究」,「問題解決」で区切り,「問題把握」,「問題追究」から「問題解決」の順番で段階的な授業展開を構築した。問いの構造化では、単元の問い(上位の問い)を明らかにしていくために各授業の問い(下位の問い)を入れ子にしていく手法を取り入れた。単元を貫く大きな問いをMQ(メイン・クエスチョン)とした。また、MQを解決するために各授業の中核の問いをSQ(サブ・クエスチョン)と表した。さらに必要に応じて、授業を構成する小さな問いをSSQ(サブサブ・クエスチョン)として設けた。

このような主題解決学習の構造化は、教員側の指導内容の精選と生徒側の理解度や学習意欲の向上に繋がると仮説立てた。

4. 主題解決学習の構造化に向けて

(1) 学習過程の構造化

単元の導入となる「問題把握」では、主題解決学習に必要な理論や概念と結び付けながら、社会課題を自分ごととして捉えるようなアクティビティを取り入れた。「問題追究」では、教科書本文に基づいた穴埋めプリントや資料から単元で必要な知識・技能を獲得する講義型授業を活用した。「問題解決」では、社会的な課題を探究するよう促すグループワークを取り入れた。

(2) 問いの構造化

授業プリントと単元の振り返りシート(リフレクションシート)にMQとSQ等の問いを組み入れた。リフレクションシートは、効果的な「問い」を設定し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、主題解決学習を可視化することを目的としている。具体的な記入方法としては、単元の最初にMQを提示し、MQの予想や単元全体の見通

しを記入させた。次に各授業では、毎時ごとに設定したSQに自分の考えや意見を記録できるように記入欄を設けた。そして、単元終了後にもう一度、同じMQに対する自分の考えをまとめ、学習前後の変容やさらなる課題、引き続き学習したいことを記入するように作成した。

5. 単元実践事例

主題解決学習の構造化を踏まえた単元実践例を紹介する。学習過程と問いの構造化の詳細は、次ページの単元の構造図を参照されたい。

単元名 : 「労働者の権利と労働問題」(5時間)
単元の目標 : 労働者の権利及び制度に関する基本的な理解に基づき、現代の労働者の雇用や環境の課題を把握し、望ましい働きを実現する方法を考察する。

(1) 問題把握 (1 時間)

法教育推進協議会(法務省)が作成した『未来を切り拓く法教育 童話「桃太郎」における桃太郎とサルの労働契約』の教材を導入として活用、契約自由の原則を捉えながら、面接のロールプレイでの使用者と労働者の関係性に触れ、MQに接続した。

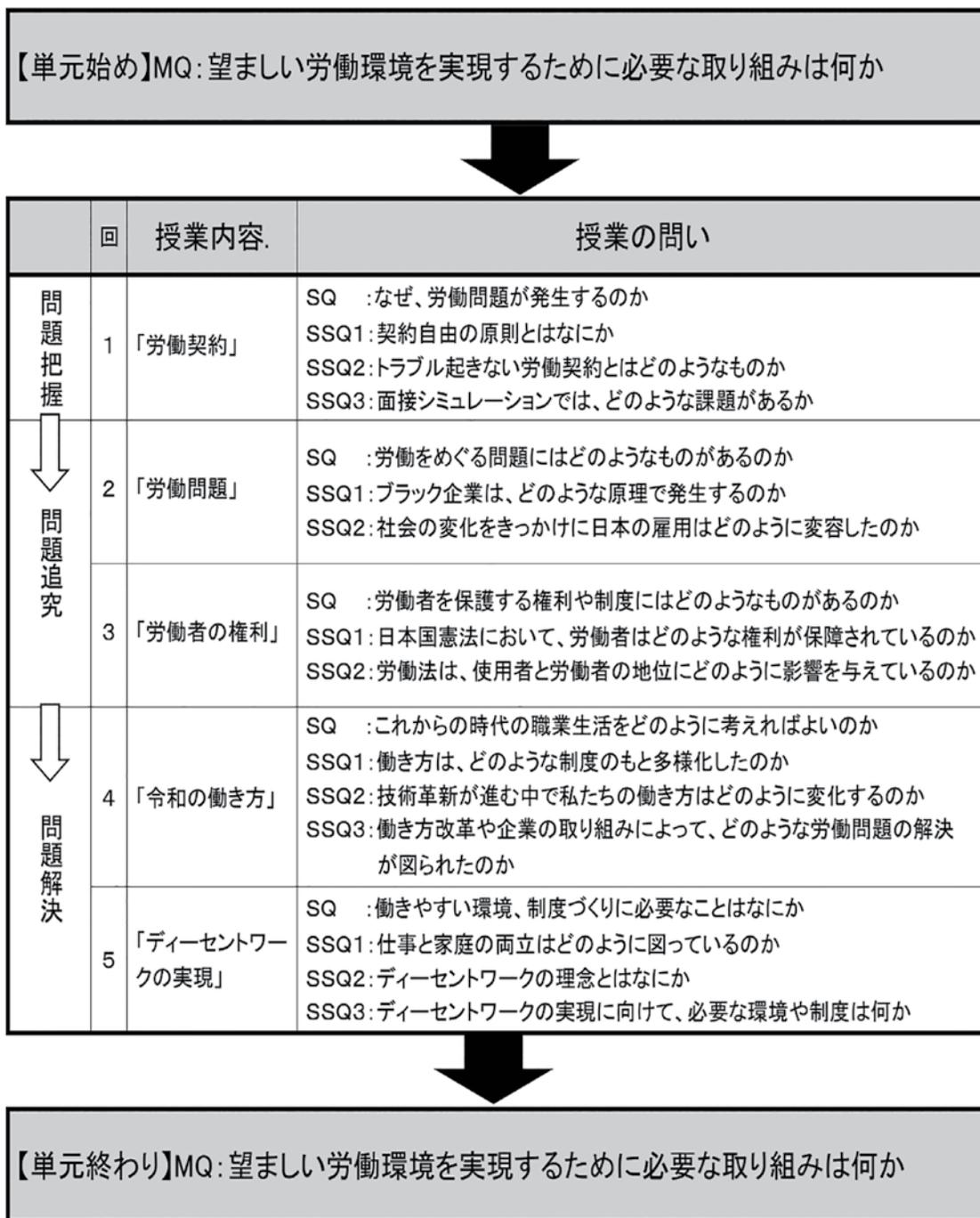
(2) 問題追究 (2 時間)

飲食店の経営シミュレーションを通じて、労働問題が発生する背景を踏まえながら、近年の労働問題やAI産業も含めた労働関係の動向、労働基本権や労働三法を理解した。

(3) 問題解決 (2 時間)

ジグソー法で変動労働時間制、勤務時間インターバル制、フレックスタイム、ワークシェアリングの4つの働きやすい環境、制度を学ぶ。さらに共働き世帯のタイムスケジュールに触れ、ILOが掲げるディーセントワークの観点から自らの職業生活の在り方を考察した。

単元名：「労働者の権利と労働問題」



6. 成果と課題

(1) 成果

仮説立てした教員側の指導内容の精選と生徒側の理解度や学習意欲の向上の観点から成果を測る。仮説立てした教員側の指導内容の精選については、単元の焦点化に繋がり、結果として主題解決学習の時数の悩みが解消されたといえる。主題解決学習の構造化は、生徒に身に付けさせたい力や問いをもとにMQや学習過程を設定できるため、教科書の内容の詰め込みから脱却し、複数の主題の統合を視野に入れながら、13の主題に捉われない単元設定ができた。先ほど紹介した「労働者の権利と労働問題」においても「職業選択」と「雇用と労働問題」の主題を統合している。その他に主題を統合して再構築した単元は3つある。「法と契約の役割」という単元では、「法と規範の意義及び役割」と「多様な契約及び消費者の権利と責任」を統合し、法や規範の意義を理解した上で、法をめぐる諸問題から、自立した法的主体として活動するために、必要な情報を適切かつ効果的に読み取り、賢い消費者としての態度や社会の法秩序を身に付けさせた。「国際社会と平和主義」という単元では、「国家主義、領土（領海、領空を含む。）」と「わが国の安全保障と防衛」と「国際貢献を含む国際社会における我が国の役割」を統合して、日本と世界の安全保障と防衛、国際社会における役割などの課題を主体的に解決させた。「市場経済と財政」という単元では、「財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定」と「市場経済の機能と限界」を統合して、市場メカニズムの正確な理解に基づき、公正かつ自由な経済活動や市場経済システム、財政を機能させる政府の役割を考察させた。

次に生徒側の理解度や学習意欲の向上については、校内の「公共」受講者280名に実施した授業評価アンケートでは、「この授業は、分かりやすく教えてくれたり、考えさせてくれたりしていますか？」の質問は、令和4年度（当てはまる55.2%、やや当てはまる31.5%、どちらかといえば当てはまらない10.3%、当てはまらない5.9%）

より令和5年度（当てはまる68.6%、やや当てはまる30.9%、どちらかといえば当てはまらない0.5%）は向上した。また、「この授業は、よく準備され、よく工夫されていますか？」の質問も令和4年度（当てはまる64%、やや当てはまる25.6%、どちらかといえば当てはまらない7.9%、当てはまらない2.5%）より令和5年度（当てはまる78.9%、やや当てはまる20.6%、どちらかといえば当てはまらない0.5%）の方が高かった。

(2) 課題

先述の授業評価アンケートの「あなたは授業の内容に興味を持ち、積極的に取り組む努力をしていますか？」の質問は、令和4年度（当てはまる34%、やや当てはまる44.3%、どちらかといえば当てはまらない16.7%、当てはまらない4.9%）より令和5年度（当てはまる49%、やや当てはまる45.4%、どちらかといえば当てはまらない5.2%、当てはまらない0.5%）は向上しているものの、「当てはまる」が半数を超えていなかった。主題解決学習の構造化の課題は、教員主導で詳細な問いまで設定しており、生徒が問いやテーマを設定しているわけではないため、積極性や興味・関心が欠ける要素が含まれていると推測した。

7. おわりに

今回、報告した主題解決学習の構造化は、教員側の指導内容の精選や生徒側の理解度向上の一助になり得るが、生徒の学習意欲は課題といえる。上位科目の「政治・経済」や「倫理」への接続を踏まえながら、「公共」の指導内容をより精選する必要があるように思う。小論の学習過程と問いの構造化をした単元構想が、「公共」を受け持つ先生方の多少の励ましになれば幸いである。

【参考文献】

渡部竜也・井手口泰典「社会科授業づくりの理論と方法」明治図書、2020年
唐木清志『社会科の「問題解決的な学習とは何か」』東洋館出版社、2023年